

研究計画書

ゼミ名	高ゼミ II	チーム名	大猩猩
タイトル	5G 時代の群雄割拠はどの国が制するのか		
テーマ群	d)国際経済 e)産業・企業		
メンバー			
研究計画内容	<p>「5G」。この言葉を聞くと何を連想するだろうか。恐らく現代の生活に慣れてしまった私たちはスマートフォンの進化ばかりを思い浮かべてはいないだろうか？だが、5G に秘められている可能性はスマートフォンにとどまらない。確かに 1980 年代に携帯電話が登場して以降、1G から 4G と呼ばれるものまでは携帯端末やその中のサービスの進化が挙げられた。5G では高速・大容量に加えて多数接続・低遅延が実現されること、生活の中で使用されるモノがすべてインターネットに繋がることで私たちの生活を根底から覆しかねないものだ。その活用法には AI、自動運転、遠隔医療など今までは SF の中の技術であったものがあげられる。</p> <p>では 5G の技術によって世界をリードしていく国はどこか。我々が注目したのは「中国」である。中国では近年アメリカとの貿易戦争がメディアでも頻繁に取り上げていたが、今まで世界をリードしていた米国が危険視するほどに中国の技術的な成長が高いと言える。中国では「中国製造 2025」というスローガンのもとで世界の製造大国から製造強国のトップのなることを目標としている。5G はこの野望のために欠かせないものだ。現に中国では 5G やその関連技術を有する企業が次々台頭してきている。中でも政府から大きな期待を寄せられている 4 つの企業「BATH(バイドゥ、アリババ、テンセント、ファーウェイ)」に着目した。これらの企業は 5G を根幹とした自動運転・スマートシティ・医療画像認識など様々な分野で研究を進めている。</p> <p>当然、アメリカをはじめ各国も黙ってはいない。アメリカは GAF A を中心に、新たな世界の覇権を握らんと日々研鑽している。日本でも 2020 年から本格的に 5G サービスが開始される。我々も 5G と無関係ではいられない。</p> <p>そこで、中国だけでなくアメリカや日本とも比較しながら、5G 時代をどの国が制するのか研究を進めていく。</p>		